

GIGAスクール構想のもとでの 小学校外国語活動・外国語科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの小学校外国語活動・外国語科の指導においてICTを活用する際のポイント

1. 小学校学習指導要領（平成29年3月31日告示）におけるICTとの関連

- 第4章 外国語活動／第2章 第10節 外国語 第1 目標
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと／読むこと、話すこと／書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- 第2 各言語の目標及び内容等 英語 3 指導計画の作成と内容の取扱い（2）オ
児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。
- 第2章 第10節 外国語／第4章 外国語活動
単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つ/三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

2. 外国語指導においてICTを活用する際のポイント

【言語活動・練習】で活用

児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化を図ることがねらい

- ・言語活動（特に「話す」、「書く」機会）の充実とパフォーマンステスト等評価への活用
- ・言語活動で活用するための、音声・文字・語彙・文構造・文法などの定着（繰り返し練習）
- ・一人一人の能力や特性に応じた学びの機会の確保

【交流・遠隔授業】で活用

遠隔地・海外とのコミュニケーションと災害など非常時への対応がねらい

- ・遠隔地や海外等の児童生徒、英語話者との「本物のコミュニケーション」
- ・新型コロナウイルス対応や大規模災害等に伴う休業期間における学びの保障
- ・小規模校における対話的な学びが可能

【コンテンツ・授業運営】として活用

興味・関心、学習の質を高めることがねらい

- ・コミュニケーションのモデル提示、「聞く」「読む」ための素材の提供
- ・板書や説明時間の短縮等により、言語活動中心の授業展開が可能
- ・写真やイラスト等により、日本語を介さずに英語のまま理解することを支援

小学校・5 学年・外国語科・自己紹介をしよう①

育成を目指す資質・能力

日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

活動のねらい

英語を使って、その場で初めて出会う人とお互いのことを分かり合うためにできることやできないことを含めて自己紹介し合うことができる。

ICT活用のポイント

- ・ICTを活用し、ALTが本来勤務校に滞在しながら、空き時間等に個室で本校の活動に参加できるようにしている。
- ・子供が必要に応じてICT端末を操作して、伝えたいものを拡大して映している。

本活動のねらいを確認

班ごとにICT端末を使って言語活動を実施

活動後、やり取りの内容を全体で共有

ねらいを達成するための工夫を確認

事例の概要

- ・子供たちは、班ごとにICT端末を使い、初めて出会う相手と自己紹介をし合う。
- ・子供たちは、自分について相手に伝えることをあらかじめ考えてはいるが、相手の反応に応じて、その場でやり取りを行う。相手の話すことが聞き取れなかったり、自分の言いたいことをどう伝えればよいか分からなかったりする場合は、班で助け合う。
- ・このような活動を行うことで、子供たちは既習表現を駆使し、ジェスチャーを使ったり、必要に応じてICT端末を操作して伝えたいものを拡大して映したりするなどして、初めて出会う相手とやり取りする達成感を味わうことができた。

小学校・5 学年・外国語科・自己紹介をしよう②



【ICT端末でつながる様子】



【ALTの遠隔による参加】

○活用したソフトや機能
ウェブ会議ソフト

【単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力を育成するために】

英語話者との単なる交流イベントにするのではなく、複数単元での学習内容を基にした言語活動として、子供の外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力の基礎の育成につながるよう、年間指導計画の中に位置付けて行いたい。そのためには、**なぜ市内のALTに自分のことを分かってもらったり、相手のことが分かったりするために自己紹介をし合うのかなどの、コミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定が大切**である。

(例) ALTが、「友達のALTは自分の勤務校が一番素晴らしいと言っているが、私はこの学校こそが一番素晴らしいと知らせたい。だから、自分や友達、先生のできることを紹介し、この学校の素晴らしさを伝えることに協力してほしい」と子供たちに依頼をする。

【ICT活用のポイントの補足】

初めて出会う英語話者に自己紹介をするという場面設定は、子供にとって英語を使うコミュニケーションを図る動機付けになるとともに、言語活動中心の授業となる。しかしながら、1校に複数のALTを同時時間帯に集めるためには、本来の勤務校等との調整が必要である。本事例では、**ICT活用の強みを生かして、市内複数のALTは勤務校での空き時間に遠隔で本活動に参加しており、他の学校でも実施可能な活動**としている。

【今後期待される展開】

- ・本事例は、第5学年のものであり、初対面の英語話者とやり取りをすることに不安を感じる子供もいることに配慮し、班単位で実施している。今後、言語活動を通してその場でやり取りする資質・能力を育成したうえで、**ICT端末を個別に使って初対面の英語話者と1対1でやり取りをする活動に発展することが期待される。**
- ・教師は、子供が班ごとに英語話者とやり取りしている様子を観察し、**個別支援を行ったり、やり取りの様子を録画しておき、評価材料としたりすることもできる。**

小学校・3学年・外国語科・アルファベットの大文字①

本事例は第3学年での実践ですが、研究開発学校であり、「外国語科」として「書くこと」も行っています。

育成を目指す資質・能力

活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
大文字を活字体で書くことができるようにする。

活動のねらい

身の回りにはアルファベットの大文字に見えるものが多くあることに気付くとともに、アルファベットの大文字を読んだり書いたりできる。

ICT活用のポイント

自分が見つけた大文字に見えるものをICT端末のカメラ機能で撮影し、その写真を見せたり、加工したりして相手に分かりやすく伝える。

本活動のねらいを確認

事例の概要

身の回りの大文字に見えるものをICT端末のカメラ機能を使って撮影・加工

加工した写真を学級で共有し、アルファベットの大文字について、やり取りを行う。

見つけた文字について交流と確認

- ・子供たちは、各自で身の回りからアルファベットの大文字に見えるものを探し、ICT端末のカメラ機能を使って撮影をする。その後、撮影した写真のどの部分が、アルファベットの大文字に見えるかが分かるように加工する。
- ・加工した写真を、学習支援ソフトで共有する。
- ・子供たちは、共有された写真について、何に見えるか教師と子供でやり取りする。その後、アルファベットの大文字と、それを見つけた友達の名前をワークシートに書く。
- ・子供たちは、身の回りにアルファベットの大文字に見えるものがたくさんあることに気付くとともに、アルファベットの大文字を読んだり、書いたりした。

小学校・3学年・外国語科・アルファベットの大文字②

本事例は第3学年での実践ですが、研究開発学校であり、「外国語科」として「書くこと」も行っています。



【やり取りの様子】

【単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力を育成するために】

本活動を英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動にするためには、指導者が大型画面に子供が加工した写真等を映し出し、What alphabet letter is this? What's this? Can you find ~? などと、**子供に投げかけたり、子供同士で、Where is 'A'? Is this 'B'?**などとやり取りをさせることが大切である。



【学習支援ソフトによる共有画面】

【ICT活用のポイントの補足】

- ・身の回りのアルファベットの大文字に見えるものについて、口頭での説明や絵で伝達するよりも、**ICT端末で撮影した写真の方が相手に伝わりやすく、聞き手の関心を高めることができる。**
- ・写真を学習支援ソフトで共有することで、**板書や掲示に係る時間短縮を図るとともに、子供は各自のICT端末で写真を拡大して見やすくすることができる。**
- ・個人差が出やすい「読むこと」「書くこと」に関して、**子供が自分のペースで学習をすることができる。**



【アルファベットと友達の名前を書く様子】

○活用したソフトや機能

- ・写真撮影機能
- ・学習支援ソフトのファイル共有機能（プレゼンテーションソフトの共同編集機能でも可能）

小学校・第3学年・外国語活動・単元名：好きなものをつたえよう①

育成を目指す資質・能力

北海道提供

互いのことを良く知り合うために、相手に伝わるように工夫しながら自分の好きなものを紹介し合おうとする。

ICT活用のポイント

単語や自己紹介の方法について、動画で確認するとともに、録画した児童の発表の様子を視聴し、発表内容について話し合うことで、自分の発表を客観的に振り返ることができる。

事例の概要

導入

既習表現の確認

展開

自己紹介シートの作成
発表（自己紹介）

終末

本時の振り返り

- メモ機能を活用し、児童一人一人が自分の好きなものなどについて絵や言葉で表し、自己紹介シートを作成
- 自己紹介の仕方を確認できるよう、ファイル共有機能を活用し、教師が自己紹介シートに描いたイラストなどを示しながら自己紹介をするモデル動画を共有
- ファイル共有機能を活用し、発音の仕方を確認できるよう、教師が発音と口元を撮影した動画を共有
- ICT端末を用いて、児童一人一人が作成した自己紹介シートを示しながら発表
- 友達が自己紹介している様子をグループ内で撮影し合い、ファイル共有機能を活用し、グループ内及び教師と動画を共有

- 友達の自己紹介を聞いて思ったことや、自己紹介に向けた取組を振り返り、学習支援ソフトに入力
- 提出されたデータを教師が確認し、学習状況を把握

小学校・第3学年・外国語活動・単元名：好きなものをつたえよう②

【事例におけるICT活用場面①】



【ICT端末を効果的に活用するためのポイント】

- 必要に応じて、発表の様子を振り返り、発表の仕方を工夫することができるよう、録画した映像を共有フォルダ等に保存

【児童や教師にとってのICT活用のメリット】

- 発表している場面を録画した映像をもとに改善点等についてグループで交流したり、優れた内容を学級全体で共有したりすることが可能

【事例におけるICT活用場面②】

<p>今日のふりかえり 楽しみながら学習できてす ごく物の名まえを学べる時 間でした。もっとほかの ものの英語の名まえを知り たいです。次の時間も楽し みです。 2020年12月12日 12:03</p>	<p>今日のふりかえり えいごでもだちといっ しょにどうぶつの名まえのク イズを出しあうのがたの しかったです。もっとどうぶ つの名まえをえいごで言え るようになってほしいと思 いました。 2020年12月12日 16:48</p>	<p>(まぐは今日友だちといっ しょにえいごを使いはな すことができてたのし かったです。えいごで ハハセアツク、マウの 名前もえいごで言え ました。もっとどうぶ つ名まえをえいごで言 えたいと思います。 2020年12月13日 20:12</p>
<p>ふりかえり きょうのえいごはとて たのしかったです。いろ んなどうぶつ名まえを えいごで言えたいです。 2020年12月14日 0:47</p>	<p>僕は最初の自分より英語の ことがすごく好きになり ました。なぜならこの 勉強はクイズばかりだ と思いましたが他にも いろいろな問題がある ので楽しく学べる 授業だと僕は今回思 いました。なので今 後のクイズから答え をいばい出していき たいです。 2020年12月12日 12:03</p>	<p>今日のふりかえり えいごでもだちといっ しょにどうぶつ名まえの クイズを出しあうのが たのしかったです。も っとどうぶつ名まえ をえいごで言えたい と思います。 2020年12月12日 16:48</p>

【ICT端末を効果的に活用するためのポイント】

- 授業の終末において、児童一人一人の記述内容を閲覧し、交流したり、次の学習に生かしたりすることができるよう、一覧にして提示

【児童や教師にとってのICT活用のメリット】

- 児童の振り返りを学級で共有し、指導者がほかの児童の学習改善につながる振り返り内容を価値づけることで、学級全体の学習改善につながる。

【活用したソフトや機能】

学習支援ソフト、ファイル共有機能

小学校・第5学年・外国語科・I want to go to Italy.①

熊本県提供

育成を目指す資質・能力

- 国名や行きたい場所について、聞いたり言ったりすることができる。また、それらを書き写すことができる。
- 行きたい国や地域について理由も含めて伝え合う。
- 他者に配慮しながら、行きたい国等について説明したり、自分の考えを整理して伝え合ったりしようとする。

ICT活用のポイント

- ICT端末を活用し、個別に既習語句や表現を繰り返し聞くことにより、自己のペースで学習を進めることができる。
- 遠隔交流校の児童とICT端末を活用したやり取りや発表を行うことで、言語活動の充実を図ることができる。

事例の概要

本校（A校）は小規模校であり、コミュニケーションを図る相手が限られる。より対話的な学びを実現するために、単元終末の言語活動において、ウェブ会議ソフトを活用し、交流校同士の遠隔協働学習を実施した。

○対象学級 A校（本校）：児童3人、B校（交流校）：児童12人

○単元のゴール

「旅行会社の社員になりきって、おすすめの国を紹介したり行きたい国を伝えたりしよう。」

○ICT端末の主な活用場面（①～③）

①【導入・Small Talk】

「日本のおすすめの地域」をテーマにした学級担任とALTのデモンストレーションを視聴した後、オンラインでB校の児童と1対1のSmall Talkを複数回実施。

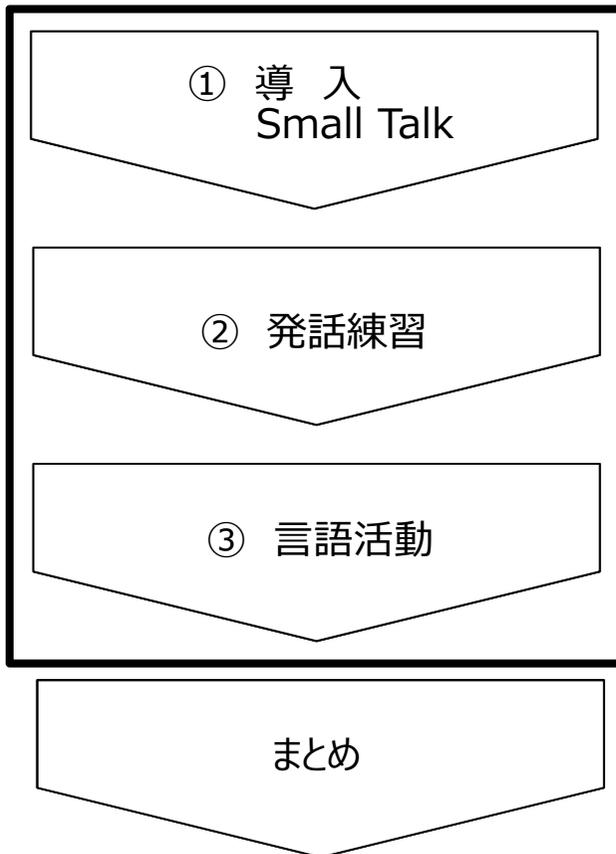
②【発話練習】

デジタル教科書の絵辞書やALTが作成したオリジナル動画を個人のICT端末で視聴し、既習語句や表現を自己の課題に応じて個別に練習。

③【言語活動】

ICT端末を使用し、自作のパフレット等を示しながら、交流校の児童に向けて、自分の「おすすめの国」を紹介。

大型スクリーンを使用し、ウェブ会議ソフトで交流校の児童の「おすすめの国」の発表を視聴。



小学校・第5学年・外国語科・I want to go to Italy.②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【事例におけるICT活用の場面③】



①Small Talk

遠隔による1対1のやり取りを相手を替えて複数回実施。題材を前時に学級内の友達同士で扱ったもの（日本のおすすめの地域）にすることで、初対面の相手とも意欲的にやり取りすることができた。

②発話練習

本時の言語活動で使用する基本表現については、ALTがオリジナル動画を作成し、ファイル共有機能を用いて、ICT端末で個別に視聴させた。それにより、自己の課題に応じた練習を行うことができた。

③言語活動

「おすすめの家」を発表し合い、聞き手側には「行きたい国」を選ぶという目的意識を持たせた。そのことにより、児童は画面越しの相手にも、より分かりやすく伝わるように相手に配慮した発表を行った。

○ICT活用の留意点

ICT端末を効果的に活用するためには、その活用場面や目的を明確にするとともに、それに要する時間などを綿密に計画する必要がある。それに伴い、授業の計画段階で活動内容全体が精選され、目標達成に向けた効果的な指導につながった。

【活用したソフトや機能】 プレゼンテーションソフト、ウェブ会議ソフト、ファイル共有機能

小学校・第6学年・外国語科・My Future, My Dream 夢宣言スピーチをしよう①

札幌市提供

育成を目指す資質・能力

- (1) 中学校生活や将来について考え、夢を発表する語句や表現を理解するとともに、それらを用いて、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。
- (2) 夢を発表する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付加したりして、発表することができる。
- (3) 中学校生活や将来について考え、他者に配慮しながら、自分の夢について発表しようとする。

ICT活用のポイント

- 各児童が、ICT端末を活用して動画撮影した英語のスピーチを共有し、互いの発表を視聴して学び合う。
- 中学校区内の小・中学校間で、互いが作成したスピーチ動画を視聴し合い、オンラインで評価や感想等を伝え合う。

事例の概要

中学生が作成した「中学校紹介」のスピーチ動画を視聴

中学校生活や将来について考え、ICT端末を活用して「夢宣言スピーチ」の動画を作成

中学生に「夢宣言スピーチ」を視聴してもらい、ウェブ会議ソフトを活用して感想や質問を交流

①中学生が作成した英語での

「中学校紹介」のスピーチ動画を視聴し、感想や質問等をメールで返信する。



②中学校生活で楽しみにしている学校行事や部活動、将来就きたい職業等について、ICT端末を活用しながら「夢宣言スピーチ」の動画を撮影する。出来上がった動画を中学校に送り、中学生が視聴する。

③ウェブ会議ソフトを活用し、中学校と交流を行い、スピーチの振り返りを行ったり中学校生活について知りたいことをインタビューしたりする。

小学校・第6学年・外国語科・My Future, My Dream 夢宣言スピーチをしよう②

【事例におけるICT活用の場面①】



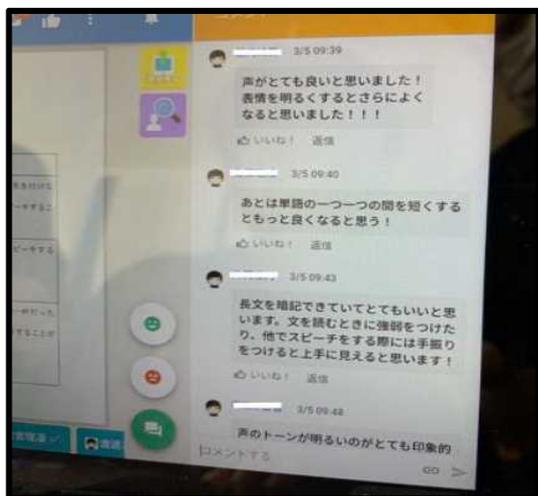
複数児童で1台のICT端末を活用する場合に比べて、各児童がそれぞれのICT端末を活用し、準備、動画撮影をすることで、作業に要する時間が短縮され、スピーチ考案や話し合いの時間を十分確保できる。

【事例におけるICT活用の場面②】



- ・動画の制作途中段階でウェブ会議ソフトを活用して交流する中で、中学生やクラスメートからアドバイスをもらうことにより、自身の発表の完成度を上げることができる。
- ・1人1台のICT端末環境が小・中学校で共通して整備されたことにより、ウェブ会議ソフトを活用して動画の共有ができる。それにより、遠隔でも互いの表情を確認しながら相互評価ができ、よりよいフィードバックにつながる。

【事例におけるICT活用の場面③】



- ・作成した「夢宣言スピーチ動画」を中学生に視聴してもらうことで、英語の表現だけでなく、話す速度や表情、ジェスチャーなど視覚的な情報をもとにした評価をもらうことが可能となる。
- ・評価のコメントは、メール機能やチャット機能を活用した。グループを設定してチャット機能を活用すれば、より多くの人からフィードバックしてもらうことができ、今後のスピーチ発表について、生かすことができる。
- ・学習支援ソフトを用いて動画を提出するようになれば、指導者が動画を見て評価したり、評価コメントを児童にフィードバックすることも可能である。

【活用したソフトや機能】学習支援ソフト、ウェブ会議ソフト、カメラ機能、メール機能、チャット機能、ファイル共有機能

小学校6年・外国語科・This is my town.(3)話すこと[発表]ウ①

静岡市提供

育成を目指す資質・能力

静岡市に初めて来た外国からの観光客に、静岡市に来てよかったと思ってもらえるように、情報を整理し、地域のよさや自分の考え、気持ちなどを含めて、静岡市の魅力を英語で話すことができる。

ICT活用のポイント

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況を「静岡市に初めて来たALTに、静岡市に来てよかったと思ってもらえるよう、静岡市の魅力を英語で伝える」と設定し、児童が自分の発表を見直したり、友達の発表を見て参考にしたりするためにICT端末（カメラ機能、学習支援ソフト等）を活用する。
- ・児童が自らの学びを振り返り、自分の学びに生かすことができるように、ICT端末（表計算ソフト等）を活用する。

指導者によるSmall Talkや指導者とのやり取りから、本単元のゴールを理解し、単元の見通しをもつ。

ALTやGETのSmall Talkから、施設名や静岡市の特色、町の様子やその伝え方を知り、慣れ親しむ。

自分たちの考えた静岡市の魅力を英語で伝え合い、友達の発表を視聴することで、自分の発表をよりよくしていく。

板書や教材を参考に写真の説明（施設名、できることなど）を英語で書き写し、パンフレットを見せながらALTに伝える。

事例の概要

- 学習支援ソフトのファイル共有機能を使い、プレゼンテーションソフト（動画を貼り付けるためのデータ）を配布する。
- カメラ機能を活用し、各児童はプレ発表動画を撮影する。また、課題として配布されたプレゼンテーションソフトに動画を貼り付け、それらのファイルを共有し、互いの発表を視聴し合う。互いのよい点や課題点を交流し、次への目標を立てる。
- 立てた目標のもと、再度カメラ機能を使い、発表の様子を撮影し、プレゼンテーションソフトに貼り付け、教師に提出する。
- アンケート機能や表計算ソフトを使って、児童は振り返りを行い、学習支援ソフトを用いて、教師に提出する。教師は、児童の振り返りを表計算ソフトを用いて一覧にし、学級で共有する。そうすることで、児童の学習改善に役立てたり、データの蓄積を行ったりすることができる。

小学校6年・外国語科・This is my town.(3)話すこと[発表]ウ②

【事例におけるICT活用の場面①】



カメラ機能で自分の発表を撮影
→自分の発表の様子を客観的に見る機会を設定

【事例におけるICT活用の場面⑤】



表計算ソフト、アンケート機能に「振り返り」を記録、提出
→学習改善・学びの蓄積

①ICT端末のカメラ機能を活用し、児童一人一人が自分の発表を撮影し、客観的に見る機会を設定することができる。

→複数児童が1台のICT端末を活用する場合より、時間短縮を図り、効率よく授業展開することが可能

②それぞれが撮影した動画をプレゼンテーションソフトに貼り付け、共有することで他の児童の発表の様子を視聴し、よい点や改善点を見付け、自分の発表に生かすことができる。

→各児童がそれぞれのICT端末を用いて、他の児童の動画を視聴することで、時間短縮を図り、効率よく授業展開が可能

③学習支援ソフトを使って提出された児童の動画を、学級で共有することで、静岡市の魅力を伝えるよいモデルを示すことができる。→情報の共有

④ICT端末で、再構成した自分の発表を隣の児童と共有し、その場で対面で意見交換をすることができる。

→画面越しのみならず、対面で意見交換する機会の設定により、児童が画面越しと対面でのやり取りの共通点や相違点に気付くとともに、両方のよさ、特色を実感。

⑤表計算ソフトに「振り返り」を記入することで、児童自身が継続的に蓄積されている自らの学びの過程を振り返り、その後の学習改善に生かすことができる。また、特定の内容をアンケート機能を用いて提出させた「振り返り」から自己調整の様子を読み取るとともに、その姿が授業で観察された粘り強い言語活動への取組として表れていたことを確認した上で、評価に生かすことができる。→学びの蓄積

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト、カメラ機能、プレゼンテーションソフト、ファイル共有機能、表計算ソフト、アンケート機能